

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年八月
凡士 ことは		きいち のり子 俳翁	のり子	みずほ 知子 風子 マスミ しーしー	月を 鶴城 かげろう	知子		きいち 佳月 月を						山菜	
鈴虫を耳に残して今日を終ふ <small>早くも玄関先に落蟬が、今夏も幾度見るだろうか。平和な暮らしに感謝したいです。</small>	林檎噛む音のかりつと日曜日	平和にも慣れて八月十五日 <small>平和ぼけを言わしめている。終戦記念日を風化させたくないという思いが伝わる。八月十五日をこんなに的を得て詠めるとは。詠めそうで詠めない句です。</small>	パレットに絵具山もり秋初め <small>芸術の秋が始まる。</small>	卓袱台は小津の魔法よ夜の秋 <small>小津の魔法、確かに東京物語など、卓袱台の文化でした。夜の秋より、秋の夜のほうが、私は好きです。小津作品の魅力が的確に。笠智衆主演の小津映画のワンシーン。適齢期の娘と夜の秋の取合わせは秀逸。卓袱台は昭和の頃の家族の集まる大事な家具。小津と言えは、虹智衆・原節子の演じる家族劇が偲ばれる。小津の魔法が良い。虹の彼方へ、が聞こえてきます。</small>	がぶり噛むトマト丸ごと陽の匂ひ <small>「がぶり」でなければ特選にしたかつたなあ。昔かぶりついたトマトの味を思い出させてくれる句。新鮮なトマトの美味しさの表現がよい。</small>	山の神大樹千古の蝉時雨 <small>太樹千古が新鮮</small>	昼寝妻にんまり夢の中にをり	どの子にも背伸びをさせる翳雲 <small>秋の高くなった空が想像できる。背伸びが効いています。良いじゃないですか。</small>	百日紅長き人生（ひとよ）をどう終ふ	星涼しこんぺいとうを噛んじやった	看護師女ロードバイクで萩散らす	枯花や無沙汰を詫びて墓参	夏山陰すのこに古りしお櫃かな	砂の椅子砂のテーブル砂日傘 <small>海水浴の記憶を実にリズムよく表現している。</small>	檜鼻ことは
新 曆文	丸山マスミ	西村青夏	青木鶴城	河野凡士	荒一葉	幸子	衛	新井のり子	光雲2	ありぎりす	しーしー	森 佳月	高原ひろし		

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年八月
土璃京子	しんい		のり子 六弦		光雲2		稀香 山菜				允孝 六弦	修	一葉 みずほ 京子	修	
父帰る秋刀魚もうすぐ焼けるかな <small>父親を中心とする温かい家庭を想像させるのが良い。今年の秋刀魚はとりわけ高級魚、幸せなお父さん。</small>	篝火の闇揺らしつつ鶉飼舟 <small>雰囲気のある句。</small>	パーティーの主役となりぬ花氷	行商の婆座す席の窓に虹 <small>行商のお婆さんを見る優しい視線が出会えた虹。これから何かが始まりそうな句ですね。</small>	憩いの場大企業来て緑消え	炎天下からすが羽を筆りをり <small>鴉でさえ羽を筆りたくなるくらい猛暑の表現が良い</small>	八月の重たき六日九日かな	二寸ほど世界上昇昼ビール <small>昼酒は酔いが早いとか、酔い心地を二寸ほど上昇と表現されたところが上手い。そうか、温暖化による上昇でこんなに暑いのか。</small>	法起寺を花野に沈み撮る人や	プライドの高きカンナや身を反らす	名曲のカノンコードや秋の声	県境を誰が決めたか秋の海 <small>どなたが線引きされたのか知りたいですね。季語が効いています。</small>	畑の辺の「百均」野菜蟬しぐれ <small>蟬時雨の中畑のそばの百均の無人販売が目につかぶ。</small>	かなかなのかさなる声や暮れてなほ <small>確かに暮れてなお鳴く日暮らしを詠んだのは観察の手柄。情景がリアルに浮かびますし、詩情に包まれるかんじです。リズムが良い。下五の余韻が良い。</small>	混浴やまだ世を捨てぬ生身魂 <small>生身魂はいくつになっても枯れない。</small>	
立野音思	後藤允孝	反町修	小林土璃	和田イチ子	保坂翔太	俳爺	みずる	小川夏霖	本橋稀香	石関六弦	網野月を	秋谷風舎	しんい	森下山菜	

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年八月
	佳月 みずほ		夏霖 曆文	曆文 俳翁			ひろし	一葉 みづる		ひろし 稀香 凡士			みづる	一葉 風子	
予土線はまた山に入る合歡の花	青空や心ゆくまで夏休 <small>夏休みはのびのびと心ゆくまで楽しみたいものです。夏休みの暑さ、開放感、長さなどが、この一句から感じられます。</small>	拾ひし子枝葉に隠すいまはの蝉	生真面目に生きて八十路よ法師蟬 <small>季語との取り合わせが良い。人生長くもあり、法師ゼミの如く儚さも。</small>	自らの長き影踏む晩夏かな <small>影の長さは正に、自分の人生かも。句建ても韻律もよく、おのが影と季感を詠んでいる。</small>	「環境破壊」葉月の雨はいま何処	病む友に寄せる心や星月夜	仰向けの脚は天指す蟬むくろ	居残りのシュート練習カンナ燃ゆ <small>居残りまでしてする練習と季語のカンナ燃ゆの響き合いが良い。この季語がびつたりくるものはなかなか見なかったが、非常にマツチしていると思う。</small>	蛸や猫を夕餉（ゆふげ）に誘いたし	朝靄のファーストショット軽井沢 <small>軽井沢での結婚式を思い浮かべました、朝靄の中からウエディング姿の花嫁がでてきそうです。ひと夏を軽井沢で過ごす余裕の人生うらやましい。</small>	愛犬の寝言響くや雨蛙	野菜スタンドチャリンと音の涼新た	一筋の水に留まりぬ夏の蝶 <small>小さな命に向ける視線が優しい。</small>	すれ違ふ湯上りの香よ涼新た <small>ふとすれ違ひざまに感じた涼が湯上りの香とは魅力的。湯上りの女性に新涼を感じるのは浮世絵の美人画の世界。</small>	
ありぎりす	檜鼻ことは	高原ひろし	染谷風子	小林京子	喜夫	木村小麦	霜里	日高道を	かげろう	倉田詩子	知子	渋谷きいち	中西みずほ	龍野ひろし	

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年八月
		土璃 マスミ	夏霖	凡士	しんい	俳翁		ひろし 光雲2 かげろう	きいち 京子 佳月 小麦 しーしー 六弦 山菜 かげろう		風子				
生身魂化石の生を見届ける	さて聞かむロシアの大義渡る鳥	いせ辰に千代紙を選る星祭 <small>日本の良き伝統を鮮やかに切り取っている。「いせ辰」は江戸文化を反映した千代紙や風呂敷などの製造販売で有名。素敵な千代紙で七夕の飾りを作り、星祭を祝う風情が良い。</small>	青の伸縮白の屈伸水海月 <small>伸縮と屈伸という無機質な言葉なのに鮮やかな海月のイメージが浮かぶ、見事。</small>	向日葵や首領（ドン）に敬礼する兵士 <small>ソフィア・ローレンの名作「ひまわり」はヘルソンでロケをしたという、かの地にヒマワリは今年も咲いているだろうか？ドンはブーチン？ゼレンスキー？</small>	平和てふ一語の重さ終戦忌 <small>同感です。季語、終戦忌は無いので終戦日か敗戦忌</small>	同窓会とりは故郷の踊唄 <small>故郷の同窓会ならではの句。また会おうと肩組み歌う景が浮かぶ。</small>	瀬戸焼へ煮物満載豊の秋	流灯や闇の扉を開きゆく <small>闇の扉をひらきゆくが詩的。下五の表現がよい。</small>	夫でなく父でない日のサングラス <small>こんな日を男は待つています。ちよい悪な感じの夫を好ましく見ている妻の句かと感じた。古いメガネでしようか、写真でしようか。こういう日が実は大事なんです。家庭をはなれた君はサングラスとマスクで多羅尾伴内になる。いやスパーマン。家族の中の役割から解放された感覚をうまく季語に託している。「妻でなく母でない日の」とも言える。</small>	いま不意につくつく法師鳴き始む	こつくりの手より離れる団扇かな <small>夏の昼下がりの光景で作者が羨ましい。</small>	晩年は恬淡（てんたん）がよし吾亦紅	妻介護悔い残しをり秋螢		
網野月を	森下山菜	しんい	丸山マスミ	新曆文	西村青夏	河野凡士	青木鶴城	幸子	荒一葉	新井のり子	衛	しーしー	光雲2	森佳月	

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年八月
土璃	凡士				光雲2 小麦 修 マスミ		鶴城	しんい				知子	孝文 小 ことは	ことは 月を	
逃れたるきりぎりすはや鳴き始め 「はや鳴き始め」にリアリティがある。	新涼や蕎麦打ち倶楽部入会す 定年後は終生つづけられる趣味を見つけてると同時に思い切ったチャレンジも必要ですね	夕焼に染まる街並みカフェテラス	慟哭の路面電車や長崎忌	秘密なき海月ゆらゆら波まかせ	笹舟の船頭気取り糸蜻蛉 笹舟と糸蜻蛉の取り合わせが素敵です。自慢げな糸蜻蛉が目に見える。船頭気取りが良い。笹舟に留まった糸蜻蛉はさながら船頭のように。笹舟に偶然止まった糸蜻蛉。その様子を「船頭気取り」と捉えたところが面白い。	入道雲黒々変わり街覆う	病葉やジェンダーという進化の芽 病葉とジェンダーと進化の芽の取り合わせの妙。	ファイナーレは地元の音頭盆踊 コロナ制限緩和でさぞ盛り上がったことでしょう	蘇る「リンゴの唄」や敗戦忌	転がって翅透きとほる残暑かな	母の香に振り向く先の夜店の灯	秋晴やいいことあつたよお母さん 文句なしに心を掴まれました。	菜園に二日来ぬ間のへぼ胡瓜 この暑さでは毎日通わなくては畑の野菜が大変です。へぼ胡瓜も新鮮が一番。朝と夕だけでも育つてしまうキュウリ。二日来なかつたとは恐ろしく育つたことが目に浮かぶ。いろいろあつて楽しい家庭菜園です。	夏草や道楽ものの医者かよひ 心大らかに生きていきたいものだと思います。こんな粋な医者今時はいないですね。	
中西みずほ	渋谷きいち	立野音思	龍野ひろし	反町修	後藤允孝	和田イチ子	小林土璃	俳爺	保坂翔太	小川夏霖	みづる	石関六弦	本橋稀香	秋谷風舎	

								82	81	80	79	78	77	76	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年八月	
								しーしー	鶴城	稀香	夏霖	みづる	允孝			
								富士を従へ群れは東へ翳雲	残生は嘘の少しをつくつくし <small>諧謔味が何とも素晴らしい。</small>	骸あり蔵は建てたかコガネムシ <small>黄金虫は金持ちだという童謡が浮かびました、俳諧味のある句です</small>	朝顔の萎ゆ日曜の寝起きかな <small>日曜の幸福な朝寝に共感。</small>	空き部屋に残り香も消へ残暑かな <small>かつてはその部屋の主であった家族の不在、残り香さえも消えた後の空虚な寂寥感が伝わる。</small>	路地裏に思はぬ出会ひ牽牛花 <small>どんな出会いに合われたのかな。下五の牽牛花が良いですね。</small>	朝靄の白樺林鐘流る		
								小林京子	染谷風子	霜里	かげろう	喜夫	知子	倉田詩子		